

年たてば収穫できる。ところが林業は70年以上です。その長いスパンがゆえに、先人が木を植えた心と先人の汗に感謝し、それを大切に次世代のために繋いで行く精神がなければ、林業は成り立たないでしょう。人の一生として与えられた時間ははるかに超える自然の摂理を謙虚に受け容れることが肝要だと思います。

極端な話ですが実は私、巨樹を守るとか、自然保護とかいう言葉が余り好きではありません。特に嫌いなのがエコマーク。

——お嫌いですか。

市川 あえて誤解を恐れずに言えばということですよ。エコマークは、人の手が地球を抱えているでしょう。大切にするといい気持ちの表現とは理解できませんが、人が地球を抱えるなんて傲慢ですよ。言葉のアヤかも知れませんが、巨樹の場合も「守ってやる」のではなく、傷つけないようにお付き合いさせて頂く、「守らせて頂く」と云うのじゃないでしょうか。



吾妻登山 (標名山外輪山)

我々は自然から恵みをいただいている。そのために、健全な自然界であってほしい、そうでないと自分たちが困る。そういう発想ではじまった自然保護が、いつしか自然を守って



倉淵地区産木材を使った中学校校舎

やっているとというような考えが強くなっているように感じるのは。木も草も人間なんていなくても、まったく困らないんですよ。一方的な利害関係。人間は植物から利益を受けるだけです。私たちはもっと謙虚な気持ちで自然と接したいと思うのです。

——今、倉淵の木材は何に使われていることが多いのですか。

市川 主流は一般建築用材ですが、近年はバイオ発電やパルプ用のチップの需要が伸びてきましたね。けっこう良い木までチップにしちゃうんです

よ。また、建築用材も接着剤や技術の進歩で集成材が主流になり、さらに生活様式の変化で住宅の設計も趣が変わり、以前のような良質材や大径木が必要とされなくなりました。数十年から百年以上の大木の価値が認められないのは淋しい限りです。

2004年、私は市町村合併前の旧倉淵村で村長を務めていましたが、その最後の仕事として、純木造2階建て倉淵中学校本館を建設しました。倉淵地区産のスギ・ヒノキ・カラマツなどをふんだんに使い、学校の主役は生徒たちだとの考えから正面玄関を生徒用昇降口、そして、駐車場の都合もあつたんですが教職員出入口は校舎の裏側という配置です。また、同時に隣り合った特別教室棟を鉄筋コンクリート3階建て建設しました。

この2棟の校舎は1階と2階が廊下で直接つながっているのですが、目を瞑って廊下を歩くと、鉄筋から木造へ、木造から鉄筋へと移るとき足に伝わる感覚が全く違うことに気がきます。これは本当に大きな発見でした。理屈抜きに多くの人に体験して貰いたいと願っています。

——全国巨樹・巨木林の会に期待するところをお聞かせください。

市川 期待するとか何とか大それたことも言えませんが、これからは「緩やかな集合体」であって欲しいですね。宇美町でのフォーラムで松島事務局長の発言にあったこの言葉が好きです。人々の巨樹に対する想いはそれぞれですが、巨樹の神秘、巨樹の生命力に対する畏敬の念は基本的に